

教師

れる場合もある。
新しい仕組みの条例案を提出した大阪維新の会の古川照人府議は「アンケートを給与に反映し、頑張った先生に報い、前向きでない

う」と狙いを明かす。
授業アンケートは二十年以上前に大学で始まり、二〇〇〇年以降に小中高校で

育学研究科の勝野正章准教授(教育行政学)は「アンケートは授業の内容が生徒に伝わっているかどうかを

た」と指摘した。
大阪府中央区の府立大手前高校では十年以上前から全校生徒にアンケートをと

し、低評価のBやCは1%未満。「アンケート結果を反映させれば、評価の差が広がり、先生に危機感を持たせられる」と考える。

に差をつけて各教員を管理するよりも「うまい先生の授業をお手本に先生同士が協力して、学校全体でレベル向上を目指した方がうまくいく」と感じている。

教育

心の垣根遊びで低く

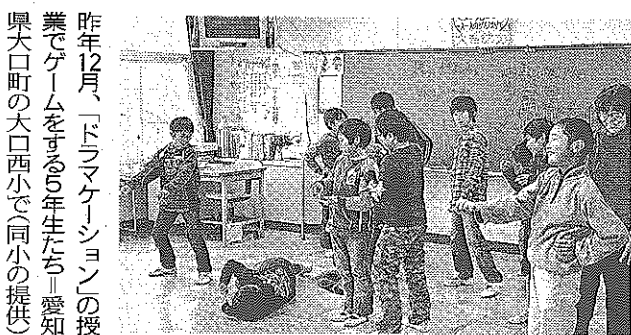
人とのコミュニケーションをうまくとれない子どもが多い。こうした現状に、人間関係づくりの教育が学校で注目されている。力を入れる愛知県大口町、大口西小学校の取り組みをのぞいた。

六年生の真希さん(仮名)は、十月に受けたコミュニケーションの授業を今もよく覚えている。行ったのはゲーム。「どう振る舞ったらいいか、初めは不安だった。けどやったら楽しかった」

人間関係を育む

愛知県大口町大口西小

中でも愉快だったのが「魔法少女になるう」の遊び。クラスの子の前で五、六人が縦に並んで竹ぼうきを持ち、みんなに見せるよう順番に顔を出して「魔法少女!」と叫ぶ。教室に笑いが起きた。別に会話をするわけではない。だが、講師の巧みな指導にいつの間にか引き込まれていた。



これは「ドラマケーション」の授業。「ドラマ」と「コミュニケーション」の合成語で、遊びを通じてコミュニケーション能力や人間関係などを育むよう開発された新しい教育法だ。

昨年12月、「ドラマケーション」の授業でゲームをする5年生たち。愛知県大口町の大口西小で(同小の提供)

文部科学省の事業で、学校の応募により、東京のドラマケーション普及センターから俳優らが講師として派遣される。学校では、七月から十二月までに、全学年がじゃんけんゲームやハイタッチなどの遊びを体験した。真希さんの心に響いたのは理由がある。四年生のころから少しずつ孤立感を感じるようになった。「私、うわさ好きで、気が付いたら友達が離れていったんです」。人との関係がうまくいかなくなり、人見知りするようになった。六年で仲良しの子とも離れ、気分は一層ブルーになった。

それが「あの授業で、また積極的にいこうと思えるようになった」と語る。み

「以前なら教えることでなく、自然に仲間と遊び、身に付けていった」となんです。と岩田和敬校長が言う。授業での遊びで徐々に分かってきた人間関係。真希さんは「同じような経験をしている子に声をかけてあげたい」と笑顔をほじけさせた。(川本公子)

News ファイル

教員就職率 62%
教員を養成する国立大・学部を二〇一二年三月卒業した人の教員就職率62%と二年連続で60%を回ったことが、文部科学の調査で分かった。就職率は一九七九年に%だったが、九九年には%まで落ち込んだ。最近団塊世代の大量退職に、都市部を中心に新規用が増えており、就職率再び高まっている。

調査対象は、小学校の員免許の取得を卒業の各にしていて全国四十四の学・学部。昨年三月に卒業したのは一万五百三人のうち六千四百六十六人が員になった。

教員就職率が最も高かったのは鳴門教育大の80%最も低かったのは秋田大42%。中部地方では滋賀